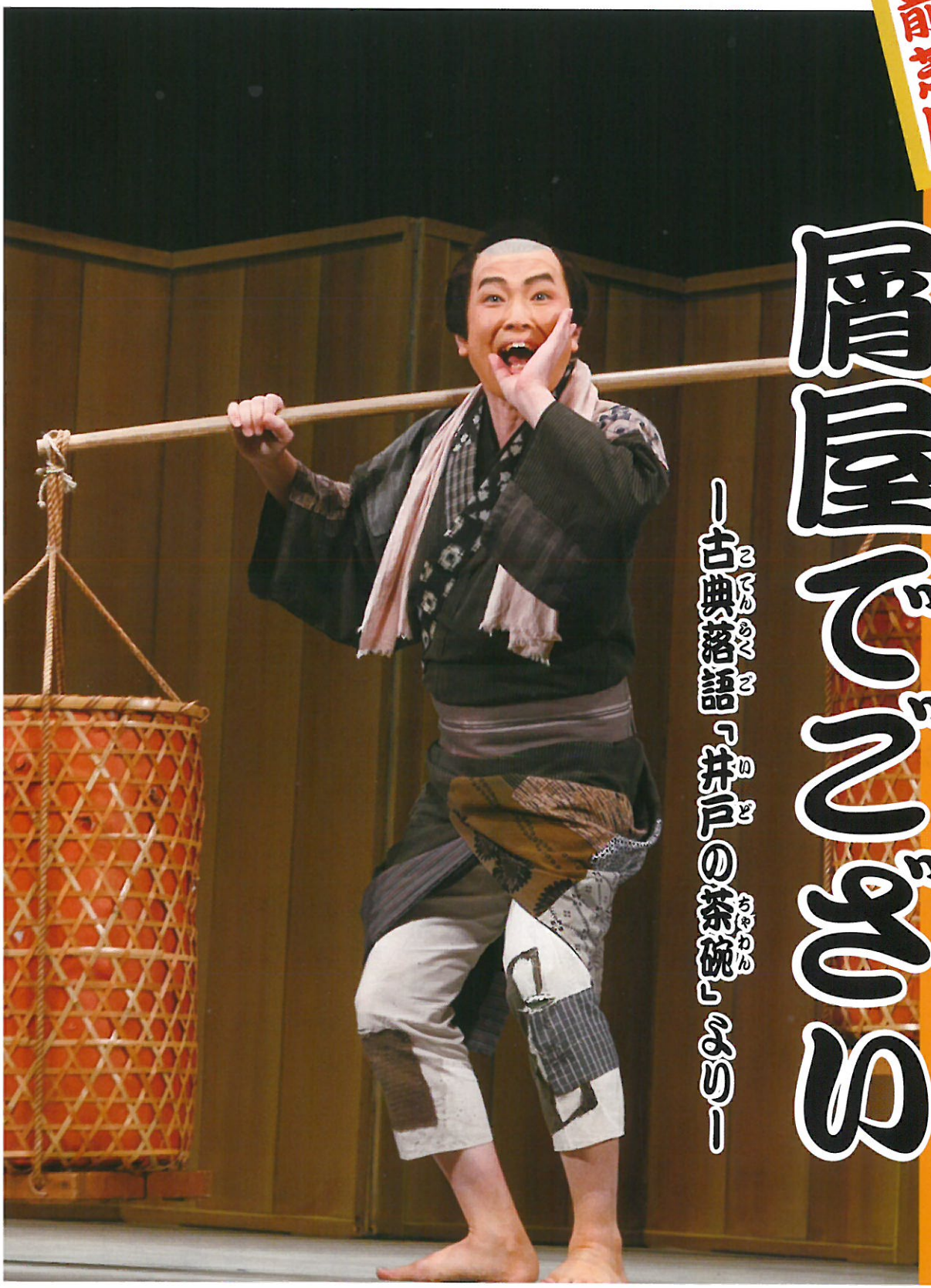
前進座公演

出前芝居

くず～い屑屋でござい

―古典落語「井戸の茶碗」より―



台本演出＝鈴木 幹二
装置＝高木 康夫
照明＝遠藤 正義
音楽＝杵屋 邦寿

2016年 **6月12日(日)** 岩見沢文化センター 中ホール

14:00 開演 (13:30 開場)

◇料金（全席自由）

一般	前売 3,500円／当日 4,000円
ペアーチケット（大人1人・中学生まで）	前売 3,500円／当日 4,000円
学生券（高校生～大学生）	前売・当日共に 1,000円

主催：前進座の落語芝居をみる会
連絡先：080-8292-1070

台本・演出＝鈴木幹二

くず～い 屑屋でござい

出前芝居

ー古典落語「井戸の茶碗」よりー

あらすじ

昔、江戸の町に清兵衛という正直で働き者の屑屋さんがおりました。

ある日のこと、いつものようにその屑屋さんが裏長屋を回っておりますと、武家女房の千代とその娘のしづから呼び止められ、家に代々伝わる仏像を買って欲しいと頼まれます。

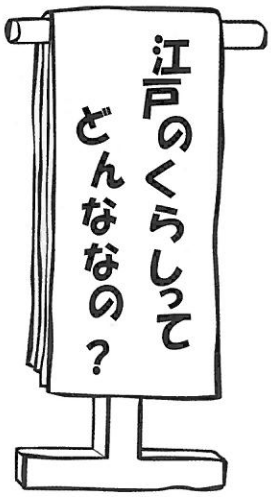
屑屋さんは断ることが出来ずに、二百文で引き取り、これより高く売れたときには、そのもうけは半分にと約束しました。

屑屋さんが仏像を持って、白金の細川屋敷のお窓下を通りかかると、高木佐太夫という若侍の目にとまり、仏像はすぐに三百文で売れたのです。

ところが、仏像の中から出てきたものは…

高木佐太夫と武家女房千代の間で翻弄される屑屋清兵衛。見かねた大家が口をきき、ついには細川の殿様まで巻き込んで、江戸中てんやわんやの大騒動に――――。

おしばいのまえに



江戸はゴミのない町だった！東京が江戸だったころ、訪れた外国人は、口をそろえて「ゴミが落ちておらず、きれいな町である」といっていたそうです。

江戸の町にはどうしてゴミが落ちていなかったのでしょう？

江戸の人たちはどんな日常を過ごしていたのでしょう？

お芝居をより深く味わっていただけるように、江戸の人たちがどのような暮らしをしていたのか、会場のみなさまと楽しみながら和やかにご紹介いたします。

感想文より

大家さんが私たちに語りかける…。観客参加型のお芝居は今までになかったと、とても新鮮でした。江戸の暮らしぶりが手に取るように分かる解説はユーモアにとみ、先人の知恵を興味深く学びました。三味線は素晴らしく、劇中に彩りを添えていました。貧しいけれど人情味溢れる人々の心の強さ、豊かさに感動し、今の時代を考えた時、「これで良いのか、もっと原点にかえらなければ」と一石を投じられました。

こんなに心から笑えて、楽しめるお芝居は初めて観ました。スッとお芝居の世界に入り込めて、本当に面白く温かい気持ちになりました。物の大切さ、正直な心についても学ばせていただきました。